

# ファストパス調達のための手法 (1/3)

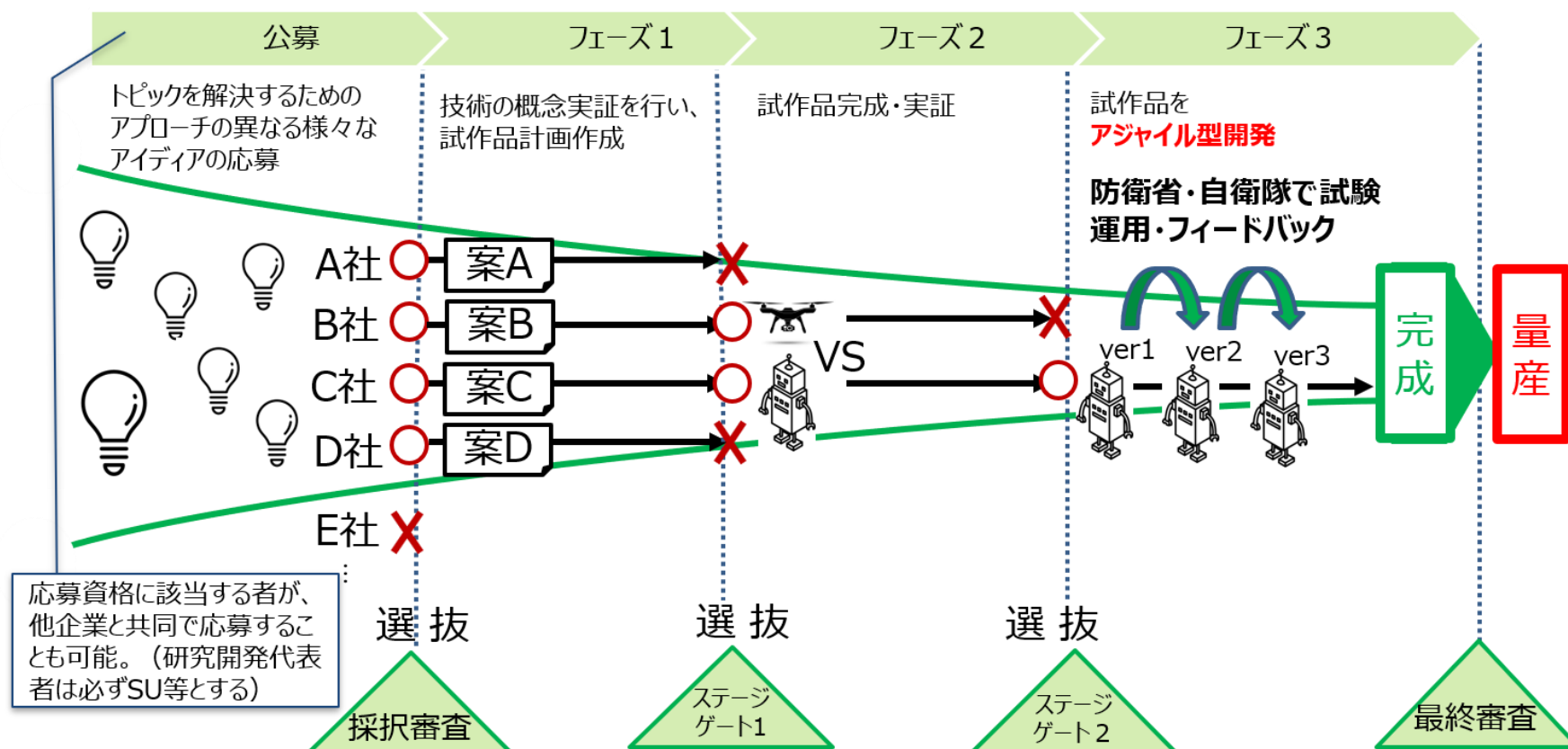
## ① 防衛省版SBIR制度

※SBIR (Small/Startup Business Innovation Research)

SUの研究開発を支援する内閣府のスキームであり、各省庁が予算化し活用。

令和8年10月から防衛省でも開始。複数企業と同時契約し、装備品の早期装備化を実現。

### 防衛省版SBIR制度 (イメージ図)

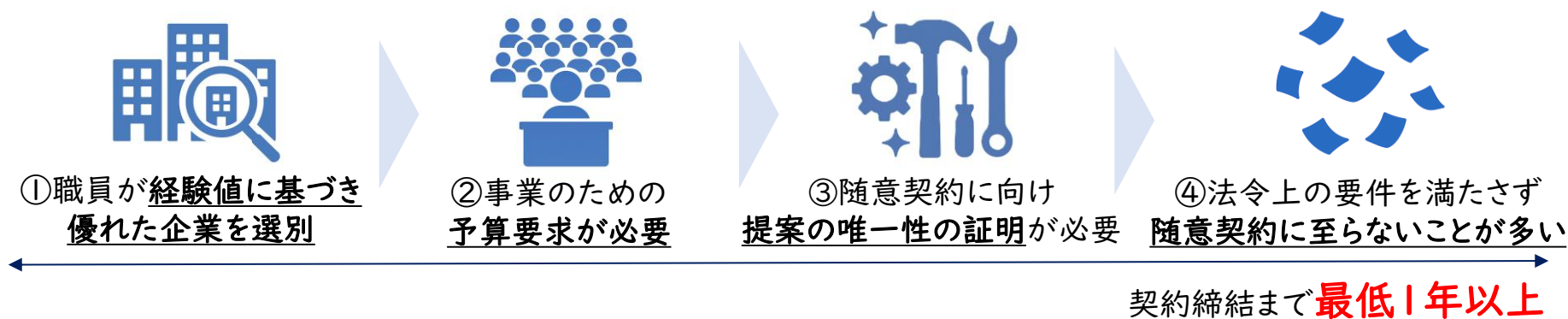


# ファストパス調達のための手法 (2/3)

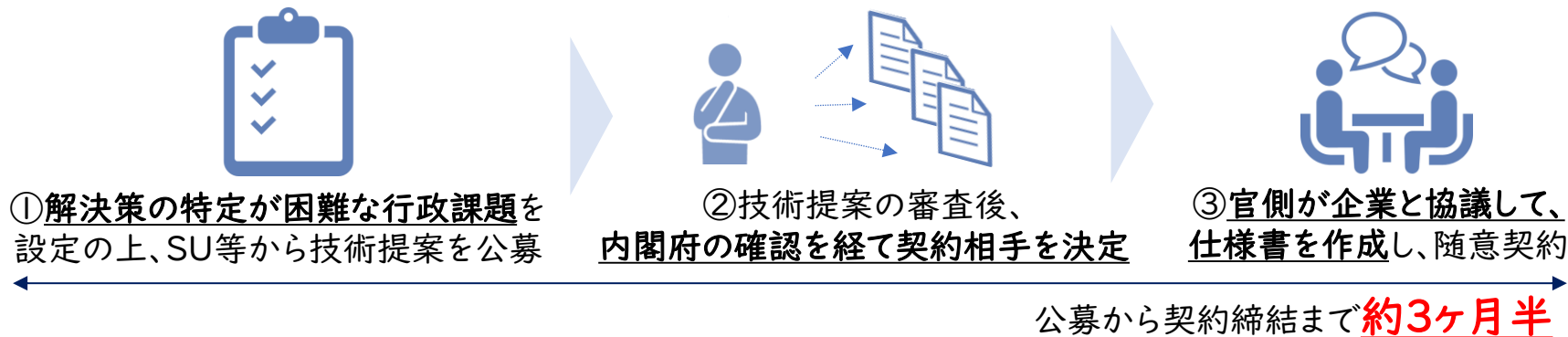
## ② スタートアップ(SU) 技術提案評価方式(スタートアップ随契)

- ▶ 現状:優れた技術を有するSUを対象とするスキームであるが、活用例は極わずか。
- ▶ 今後:随意契約のプロセスを体系化することで、より多くのSUと早期の随意契約が可能に。  
⇒高度かつ独自の新技术を有するSUとの間で仕様書を調整した上で、随意契約を締結。迅速かつ柔軟な調達手法であり、更なる活用を推進。

### ● 従来の随意契約のイメージ例



### ● スタートアップ随契のイメージ例



# ファストパス調達のための手法（3/3）

## ③ アジャイル型の調達

- ▶ 現状：アジャイル型の調達は制度化されていない状況。
- ▶ 今後：部隊と一体となった研究開発を制度化し、遙かに迅速な装備化を実現。  
⇒SUの迅速性を活かし、極めて短期間に一連のフィードバックサイクルを繰り返すことで、製品・技術を自衛隊の運用ニーズに適合させ、迅速に量産段階への移行を図る調達方式。

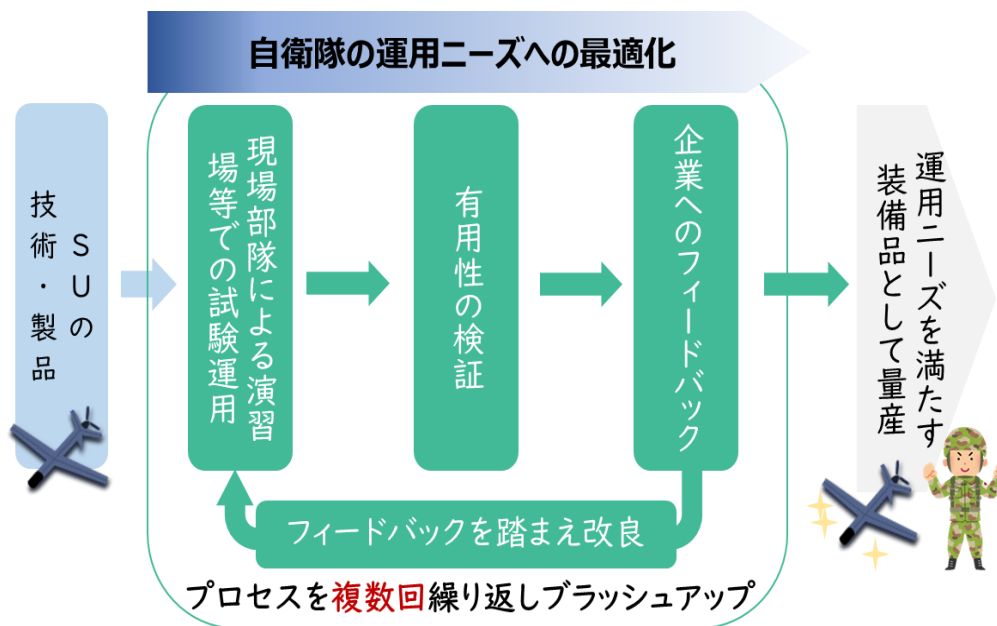
### ● 従来の調達

- 既に自衛隊の運用ニーズに合致した製品・サービスでないと調達の対象になりにくい。
- 企業が自らの投資・努力で自衛隊の運用ニーズに適合させる必要。

### ● アジャイル型の調達

- SUの既存の製品等を部隊が企業と一体となってフィードバックサイクルを回し、自衛隊のニーズに早期に適合させる。
- SUは予算化された事業の中で、自社の製品・サービスを改良可能。

### ● アジャイル型の調達のイメージ例



例：SUが製造する無人航空機をセンサー、ペイロード、自律性、通信等の改良を実施した上で、部隊での実証・フィードバックを通じて、迅速に運用ニーズに適合させ、早期の装備化に繋げる。

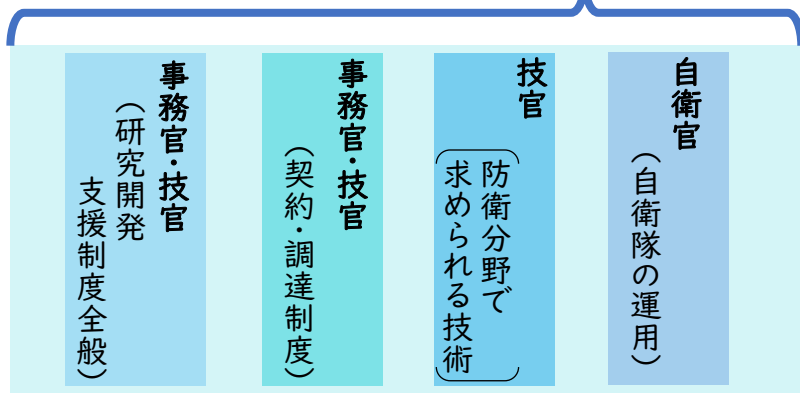
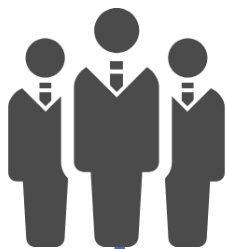
# 新たな伴走支援体制の整備

- ▶ SUの活用を更に推進するべく、防衛装備庁を中心に「スタートアップ活用伴走支援グループ」を新設。  
装備政策課の「新規参入相談窓口」を内外の一元的な相談窓口として指定。
- ▶ SUと幕僚監部等の各機関の双方に対し、自衛隊の運用ニーズとのマッチング、契約締結時の障害の解決等の「伴走支援」を実施。

## スタートアップ活用伴走支援グループ

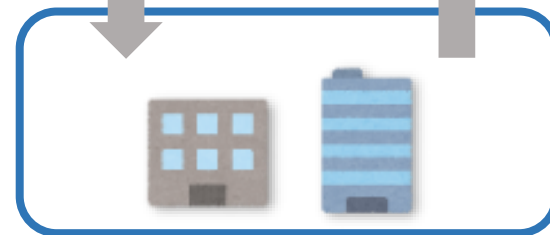
### ・防衛装備庁

- ・内部部局
- ・統合幕僚監部
- ・陸上幕僚監部
- ・海上幕僚監部
- ・航空幕僚監部 等



伴走支援

## 幕僚監部等の各機関



スタートアップ